

**研究課題名：**

胃がん罹患リスク予測における胃炎診断の意義

**研究責任者：**

研究代表者：千葉隆士（宮城県対がん協会がん検診センター）

研究者：加藤勝章（宮城県対がん協会がん検診センター）

研究事務局等はない。

**1. 研究の対象**

平成 27 年度の胃 X 線検診受診者のうち、平成 28 年度から平成 31 年度の期間にも 1 回以上胃 X 線検診を受けた受診者で、平成 27 年度の胃 X 線の診断結果が「異常なし」または「胃炎」の受診者を研究対象とする。

**2. 研究目的・方法**

*H. pylori* 感染は胃がんの確実なリスク因子であり、検診において胃炎の有無を正確に診断することで精度高く胃がんリスクを想定できる可能性がある。宮城県対がん協会では平成 27 年度から対策型胃 X 線検診に消化器がん検診学会が策定した「胃 X 線検診のための読影判定区分」（カテゴリー分類）を導入し、胃炎・萎縮がない胃はカテゴリー 1（以下、Cate-1）、萎縮性胃炎はカテゴリー 2（以下、Cate-2）と判定し、全胃 X 線検診受診者の胃炎診断を実施してきた。胃 X 線は胃炎・萎縮の診断精度が高いことが報告されているが、本研究では胃 X 線検診受診者のうち Cate-1 群、Cate-2 群から胃がん発見数と累積胃がん発見率を比較し、胃 X 線検診における胃炎診断が胃がん罹患リスク予測に寄与するかを検討することを目的としている。対象は宮城県対がん協会が実施した胃 X 線検診受診者から選定し、研究対象者を Cate-1 群（胃炎なし群）、Cate-2 群（萎縮性胃炎群）に分類し、各群の胃がん発見数と累積胃がん発見率を比較検討する。研究期間は 2022 年 3 月 23 日（倫理委員会承認後）から 2024 年 3 月までとする。

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

胃 X 線検診の X 線画像、医師の X 線読影結果（胃炎の有無）、精検結果（胃がんの有無）など。

**4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて受診者さまもしくは受診者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも受診者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

宮城県対がん協会がん検診センター

研究責任者：千葉 隆士 TEL：022-263-1525